



No. 137 2020. 1

(株) よかネット

NETWORK

津端修一さんの最後の作品は、豊かな「農ある暮らし」の精神があふれていた 2
 ～街のサナレ・メンタルヘルス・ソリューションセンター（通称：まちさな）～

見・聞・食

香港の今 4
 熊本県北「秋の三大まつりとガネ飯」ツアーに参加しました！ 6
 九州まちづくり塾 IN 佐世保大会～旧海軍遺産群を巡る～ 7

近況

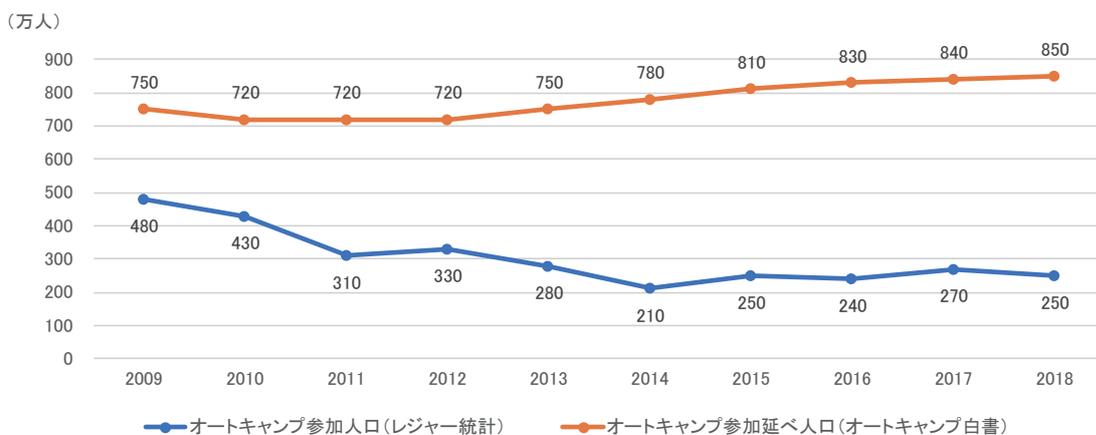
新たなコトを始める 9
 八女市上陽町芋焼酎プロジェクト～第10回大収穫祭を行いました 9
 ワークとスポーツのバランスをどう取るか 10
 健康第一 11
 今年は何処に・・・ 11
 社会人3年目！！ 12
 昨年も空と海と楽しみました 13
 6年目の体験農園 14

●オートキャンプ参加者のリピーターが増えている？

昨今はマスメディア等で第二次キャンプブーム到来と報道されている。第一次キャンプブームは1990年代におこり、オートキャンプ白書によると、ピーク時の1996年に1,580万人がキャンプに参加していた。そこで、現在ではどのくらいオートキャンプ参加者がいるのか、調べてみた。

2009年から2018年までの過去10年間のオートキャンプ参加者数を見ると、レジャー統計では、全国の15～79歳男女を無作為抽出し、推計値を算出しているが、2009年以降ゆるやかに減少し、2018年では250万人となっている。オートキャンプ白書では、施設の利用実態から参加人口を推計しているが、参加延べ人口は2012年以降増加傾向で2018年は850万人となっている。

この推移をみると、オートキャンプの参加人口は減少しているが、参加者のリピート率が高まっているのではないかと推測される。



出典：レジャー統計 2019年創刊（調査概要：全国の15～79歳男女を無作為抽出、3,226票）
 オートキャンプ白書 2019年創刊（調査概要：全国のオートキャンプ場を無作為抽出、516カ所）

津端修一さんの最後の作品は、 豊かな「農ある暮らし」の精神があふれていた。

～街のサナーレ・メンタルヘルス・ソリューションセンター（通称：まちさな）～

山田 龍雄

この施設は、佐賀県伊万里市の街なかの一角にあります。周辺には低・中層のマンションや工場等が立ち並び、そこだけが人をやさしく迎えてくれるような開かれた空間となっています。この施設の中には精神に障害を持った人々を対象にした「就労支援センター」と「こころの訪問看護ステーション」の建物が、約2,000㎡の敷地内に芝生広場と農園を囲んだ形で立ち並んでいます。この施設の基本コンセプトに共感し、設計の草案協力を申し出てくださったのが津端修一さんです。津端さんは奥さんの英子さんと一緒に、名古屋市の高蔵寺ニュータウンで「農ある暮らし～キッチンガーデン」を実践し、新しいライフスタイルを発信し続けました。2016年10月に公開された映画「人生フルーツ」でも記憶に新しいと思います。

この施設については、少なからず個人的に縁があったので、いつか機会があれば、是非、訪ねてみたいと思っていたところ、昨年10月初旬に有田町に行く途中、念願叶って、見学することができました。

●機関紙「よかネット」のお礼に、いつも絵付葉書の返信

津端さんとのご縁は、元よかネットの所長であった糸乗が担当した「瀬戸内・大三島リゾート計画」の委員長に津端さん（当時、広島大学総合科学部教授）に就任していただいたときから始まったと聞いています。その後、機関紙「よかネット」をお送りする度に、いつも丁寧な絵付の御返事がきていました。お中元やお歳暮をお送りすると、いつもこちらが送った品物をつばた流スケッチで描いたお礼の葉書も送ってこられました。今思うと、昨今のSNSにない、濃密な情報のやりとりをしていたように思います。

糸乗が、コレクティブ・ハウジング的な考え方で農ある暮らしを実現するために田園集落構想プロジェクトの活動をしていた時期の2002年4月、「つばた邸」に10人で訪ねたことがありました。「つばた邸」は、戸建て住宅地の中にあって、そこだけ雑木林のように周囲が高木で囲まれた約300坪の敷地の1/3程度のところにアントニン・レーモンド事務所の一部を再現した住宅が建ち、残り2/3に畑と果樹の木が植えられており、「農ある暮らし」を実践されていました。

「つばた邸」では、津端さんの手づくりベーコン、英子さんの手づくりのジャムとパン、ピザなど大層なおもてなしをしていただきました。その時に、津端さんが名刺サイズの用紙に毎日の食事のメニューを絵付で記録し、ファイリングしているのを見せてもらい、これは誰も真似できないなあと感じたことを覚えています。

●最後の仕事を手伝ってほしいとの依頼

2015年4月末、津端さんから一通の手紙が届きました。封書のなかには、当時の「まちさな」プロジェクトの担当者からの基本構想の依頼文、津端さんの「まちさな」プロジェクトの



約2000㎡の敷地の中に芝生広場と農園を囲む形でレーモンドの木造建築が建ち並んでいる

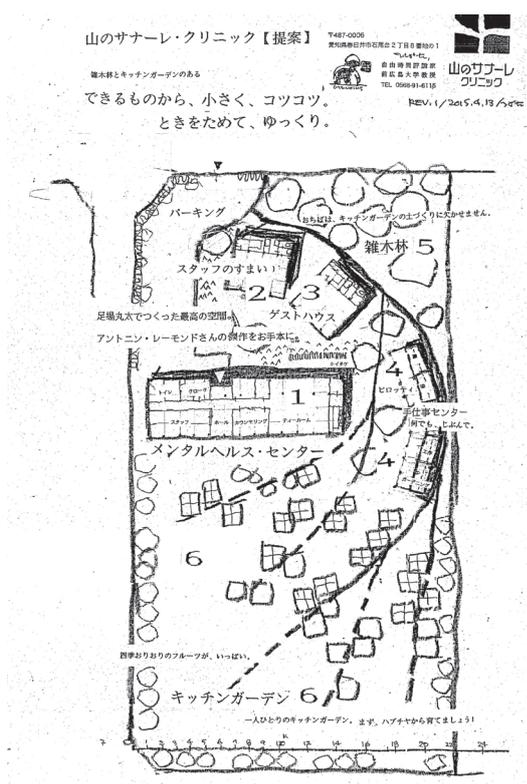


図 津端さんの当初のイメージスケッチ

提案書、九州に出向いてまでの仕事は高齢なので困難なこと。弊社で手伝ってほしいとのことなどが綴られていました。

提案書には、「つばた邸」の暮らしを継承したような「農ある暮らし」の中に、アントニン・レーモンド事務所の木造構法の建物を雑木林の中に配置させ、南側に適宜、菜園地が配置されていました。模型写真も付けられていました。

私も、早速、「まちさな」プロジェクトの担当者に電話をし、「津端さんから手伝いの要請を受けたので、一度、話を聞かせてほしい」との連絡をしたところ、暫くして返事があり、「地元の設計事務所やその他関係者で、既にプロジェクトチームを検討しているので、何かお願いすることがあれば、連絡する」といった旨の回答でした。

その後、何も連絡が無かったので、津端さんの基本構想に関係なく、基本計画が進められているのではないかと思っていたのですが、一昨年、何気なくテレビを見ていたら、地方情報の紹介をしていた番組のなかで、「まちさな」が完成したこと、その映像に正にアントニン・レーモンド事務所の空間が映っていました。津端さん



アントニン・レーモンド事務所の空間をそのまま生かした喫茶ルーム 地域の憩いの場にもなっている

の基本構想を尊重した施設となっていることに感嘆し、今回の視察となった次第です。

●津端さんの暮らし方の感銘から始まった「まちさな」プロジェクト構想への依頼

「まちさな」は、精神・神経・心療内科を専門とする「(医療法人) 山のサナーレ・クリニック」のサテライト施設として企画されたものです。ちなみに「サナーレ」とはイタリア語で‘癒し、治癒する’という意味です。この病院の経営理念は、「癒し」と「よりよい人生」を実現する価値を提供し、全体的人間性の回復に貢献する」と謳われており、この経営理念を「まちさな」はよく表しているように思います。

話は前後しますが、担当者が津端さんに基本構想を依頼するきっかけは、津端さんの長年の「ガーデンキッチン」というライフスタイルの発信の一つである著書「あしたにもこはるびより」を読んで、津端さんに手紙を出したことから始まります。手紙には「津端夫妻のシンプルで心豊かな暮らし方、住まいや畑の環境に非常に感激しました。それらは現在の私たちの所属する病院が行おうとしている事業のイメージにとっても合うもので、本当に大切なもの・ことを見つめながら自分らしい暮らしについて、お話を伺いたいこと、見学をしたいこと」が綴られていました(2015年1月)。その後、2015年3月ごろに担当者の方は「つばた邸」を訪れ、「まちさな」の施設内容について津端さんと話し合ったようです。その後、4月8日に津端さんは、基本構想案と次頁の手紙を添えて、担当者に送っています。

提案をまとめておきました。木の家をこよなく愛する大工の棟梁を信頼して、いい仕事をしていただくことです。きっとお近くにいる筈です。

タタキ大工さんではこの仕事は無理です。総合担当は工務店でも、古くて良い仕事をしていた実績のある、信頼できる人がたよりです。お金より人がたよりです。

私も 90 歳。人生最高の良い仕事に巡りありました。謝金、設計料など一切ご辞退いたします。

詳細はご相談ください。きっといいことがありますよ。

この丸太小屋はレーモンドの木造建築では最高傑作です。これが出来れば、日本と言わず、世界的に注目されるでしょう。

●「まちさな」は、真の豊かさを目指した「人生のリトリートプレイス」

「まちさな」の施設内容や運営について、レーモンド建築の豊かな木造空間の中の「カフェ」でコーヒーを飲みながら、現施設長である木下万智子さんから、お聞きしました。

「まちさな」は、障害者の就労支援センターとしては、あまりみられない取り組みばかりだと思います。

ここで仕事をするスタッフは、ただ与えられた仕事をこなす受け身の活動ではなく、仕事と遊びと社会貢献が一体となった活動で街と人がより豊かになる事を目指しています。

「農業」「工房」「カフェ」「ラボ」と四つの部門を持つことで、利用される方の可能性を広げ、自分自身の力を発揮できる機会を増やし、次のステップへ進むための応援をしています。

例えば「工房」の取り組みとして、利用者さんからの企画で津端さん愛用の木のスプーンをモデルにし、オリジナルの木のスプーンを製作したそうです。津端さんへの感謝と敬意を表して心を込めて、一つひとつ手作りした一品です。製作工程も見ることができます。

津端さんは、この施設の完成を見ることなく、2015年6月2日に眠るように亡くなりました。

私のもとに手紙が届いてから、ほぼ1か月後のことです。しかし、その後、奥様の英子さん



津端さん愛用の木のスプーンをモデルにし、木工ルームで作られているスプーン

が「まちさな」を訪れ、津端さんに代わって最後の仕事を見届けられました。

このプロジェクトの基本構想の発想は、当時の担当者の「農ある暮らし」という‘ひらめき’にあったとはいえ、この病院の基本理念を具現化したものであるように感じます。

「まちさな」にお越しの際は、医療、福祉、支援などの言葉は抜きにして、自然体で自分らしく気のままに過ごすことができます。伊万里に行く機会がありましたら、是非、立ち寄られることをお勧めします。

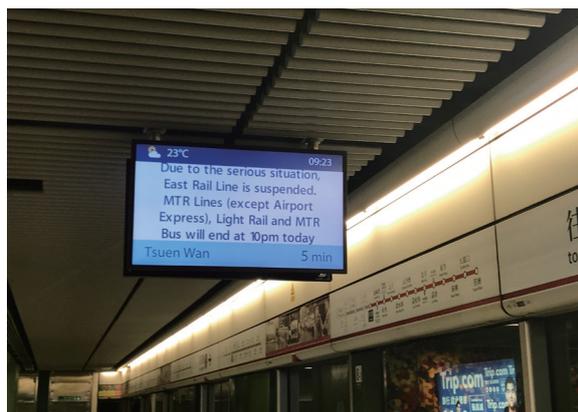
(やまだ たつお)

香港の今

山崎 裕行

昨年の11月13日～15日にかけて渦中の香港を訪ねる機会があった。後々、気づくことだが、ちょうどその数日前に、デモに参加した人が警官に至近距離で、拳銃で撃たれたり、催涙弾等から逃げていたところ亡くなったりということが起き、デモ隊と警官隊との衝突が激しさを増している状況だった。

日本のメディアでは、連日過激な様子が映し出されていたし、実際に衝突も凄かったようだが、場所はある程度限定されており、実際に行った感想としては、正直そこまで恐れることなく、平穩そのものであった。ただし、公共交通機関はマヒしていたし、タクシーも行ってくるところ、行ってくれないところがあって、移動の面では不便があった。現地の方にお聞きした内



地下鉄の運休、営業時間の短縮のお知らせ

容も含めて、香港の今をご紹介します。

●空港のセキュリティは厳しかった

香港に旅立つ前に把握していたことは、デモは休日中心で、かつ場所は限定されている。公共交通機関は平常通り運行している。まちなかのお店は、時間を短縮して営業しているといったことだった。そのため、香港に行った当日は、空港で夕食を取ることにし、ホテル到着後も出歩くことなく、おとなしく部屋で過ごすことにした。初日で感じたのは、空港のセキュリティは確かに厳しくなっており、空港職員や警察らしき人（日本でいうガードマン的な感じがした）が多く配置されていたし、パスポートと飛行機のチケットがないと空港内に入出入りができなかった。

●公共交通が動かない・タクシーも乗車拒否

2日目は、朝から晩まで計4つの打ち合わせを入れていた。平常であれば、地下鉄で全て移動できる範囲であり、地下鉄の利便性を感じられるはずであった。しかし、この日は、全く違っていた。通常、5分ペースでやってくる地下鉄が全く来ない。やっと到着した地下鉄は満員でとても乗れそうにない。次の地下鉄は、待っても、待ってもいつ来るか分からない。そういう状況に直面した。仕方なくタクシーで移動することを選択し、通りでタクシーを捕まえようとするが、なかなか捕まらない。あとで教えてもらったが、公共交通がマヒしているためにタクシーを利用する人が多いとのこと。それでも、タクシーを捕まえて、行き先を告げると何故か乗車拒否。それが数度と続いた。これも後から



メインストリートに書かれたメッセージ

聞いた話だが、向かう先にデモ隊がいたらしく、道路を封鎖していたとのこと。また、これからデモが予定されているらしく、運転手さんが行きたがらないとのこと。仕方なく、地下鉄に戻り乗ろうとすると、今度は、運休。結局、打ち合わせ場所に行くことができず、アポイントの1つは、キャンセルして、もう1つは担当の方に、わざわざ宿泊しているホテルまで来ていただき、ホテルで打ち合わせをした。もう2つの打ち合わせは、ホテルから徒歩で行ける範囲だったので、何とか先方とも会うことができました。まちを歩いて気づいたのは、開いているお店が少ないこと。道路など至る所に、香港の自由を願うメッセージが書かれていることであった。

アポイント先で今の香港情勢について話をうかがった。かいつまんでご紹介する。

- ここ最近では酷い状況が続いている。先日、習近平と行政長官とが会ってから、さらに酷くなっている。
- 昨日（11月12日）は、大学構内で催涙弾を1,000発以上打ち込むことがあった。武器を持たないデモ隊に対して、警察の対応が過激になっている。
- 収束は、デモ隊と香港・中国政府のどちらかが折れるしかない。
- 地下鉄が夜の10時まででストップしたり、そもそも動かなかったり、代替りのバスも運休。また、タクシーもつかまりにくい
- 今までは週末だけだったが、平日もデモの動きがある。しかし、比較的平日は大丈夫。
- 今後の情勢は分からない。1国2制度は、50

年は継続するという約束だったので、後22年残っている。22年後にはハッキリするかもしれない。

中国本土と香港との関係は、どうなるか誰にも分からないという状況である。ただ、思った以上に平穏だし、デモに近づくことさえしなければ、香港のまちなかを普通に歩く限りでは危険を感じることもない。2日目の夜は、少しまちを歩いたが、確かに人通りは少ないけれども、元気にお店は開いているし、お店には人々もいて楽しんでる。

●これからどうなるのか

福岡から香港、また九州各地から香港に向けては今まで通り飛行機は飛んでいるし、韓国便と違って運休という話も聞かない。相互に行き来する人はそこまで減っていないということだと思ふ。望むことならば、これまで通りの香港であって欲しいと思ふし、今後も、気軽に行き来できる状況が保たれればと思ふ。そして、今の香港の姿をみて、日本における政治に対する見方や民主主義のありようについて、これまで以上に議論が進めば良いと思ふ。

(やまさき ひろゆき)

熊本県北「秋の三大まつりとガネ飯」ツアーに参加しました！

仙波 大海

●今年は「運動の秋」から「文化の秋」へ

一昨年から、熊本県北地域には何度も足を運ぶ機会があり、一昨年の秋は和水町で開催された「キタクマ金栗リレーラン」に参加しました。久しぶりに走ったこともあり、次の日は全身が筋肉痛で痛かったですが、非常に楽しく、まさに運動の秋でした。

昨年の秋は何をしようと、9月頃から考えていましたが、仕事やプライベートでの忙しさからあつという間に11月を迎えました。何もせずに終わりそうだと思っていたところ、タイミング良く、熊本県北「秋の三大まつりとガネ飯」ツアーのお誘いを受け、熊本県北地域の文化や



「大俵まつり 米俵積出の式」にて、俵転がし歴史に触れてみたいと思ひ、参加をすることにしました。

●まずは、「大俵まつり 米俵積出の式」へ

玉名市では、江戸時代に米の積み込み場として使われていた史跡、高瀬船着き場跡で五穀豊穰と繁栄を願って行われる祭り「大俵まつり 米俵積出の式」に参加しました。実際に私も軽い俵を使って坂道を転がしてみたのですが、まっすぐ転がらず、難しかったです。当時は本物の米俵の運搬がここで行われていたのだと思うと、不思議な感覚でした。

その他にも、地元団体の演奏や熊本城おもてなし武将隊の舞、本物と同じ米俵を担いで運ぶレースなど、見どころが沢山ありました。

●南関町「ふるさと関所まつり」へ

ふるさと関所まつりは、今回訪れた3つのお祭りの中で、一番、屋台の数が多いイベントでした。この後に行く山太郎祭で昼食をいただくことになっていたのですが、あちらこちらから食欲をそそる美味しそうな匂いが漂ってきて、どこに行こうかとかなり迷いました。自分の胃袋と相談しつつ、唐揚げを購入しましたが、美味しかったため、もう1店舗だけと思ひ、つつい梅ヶ枝餅も購入してしまいました。もちろん美味しかったです。

食欲も少し満たされ、ステージイベントを眺めていると、ふるさと関所まつりのメインイベントである大名行列がスタートしました。大名行列で使用している衣装、装備品は、丁寧に作りこまれているなど感じました。大名行列は、1人ひとりにきちんと当時の衣装を身に付けて



南関町「ふるさと関所まつり」



「山太郎祭」のガネ飯

おり、船頭さんが言う「下に一、下に一」の掛け声とともに歩く姿は、江戸時代にタイムスリップしたようでした。

●和水町「山太郎祭」で初めてのガネ飯

ここでは、ガネ飯とガネ汁をいただきました。ガネとは、この地方の「カニの方言」です。ガネ飯とは熊本県の郷土料理でモクズガニを使った炊きこみご飯のことで、ガネ汁はガネのだしを取ったお味噌汁のことです。どちらもモクズガニの出汁が、しっかり効いており大変美味しかったです。

昼食後は、ゆっくりお祭りを見て回ることが出来たため、ステージイベントや屋台を楽しみ、直売所ではお土産に大きなからし蓮根を買って帰りました。

●おわりに

今回は玉東町に行くことはありませんでしたが、帰りのバス車内で玉東町の特産品「ハニーローザアイス」を初めて食べました。クリーミーで非常に美味しかったです。次回玉東町へ行った際は絶対買って帰ります。

バスツアーに参加するのは初めてだったこともあり、1人での参加は少し不安でしたが、ガイドさんの分かりやすい説明や、各市町のそれぞれの文化・歴史に触れることができ、大変充実したツアーでした。

秋のイベントは、運動の秋から文化の秋と来ているので今年は「食欲の秋」でしょうか？熊本県北地域の食と言えば、お米をはじめ、玉名ラーメンや南関あげ、ハニーローザ等、美味しいものが沢山あるイメージがあります。今から秋のイベントが待ち遠しいです！

(せんば ひろみ)

九州まちづくり塾 IN 佐世保大会 ～旧海軍遺産群を巡る～

山田 龍雄

九州まちづくり塾とは、九州各県の建築士会のまちづくり委員が、年1回持ち回りで集まり、現地視察及びまちづくりについての意見交換を行い、各参加者のスキルアップと交流を目的とした会です。元々は「建築士の集い」のエクスカッションとして行っていたものであり、過去、宮崎県（小林市）、大分県（宇佐市）、沖縄県（沖縄市）、佐賀県（唐津市）で開催してきました。今年度の第5回目は11月9日、10日に長崎県で開催されました。

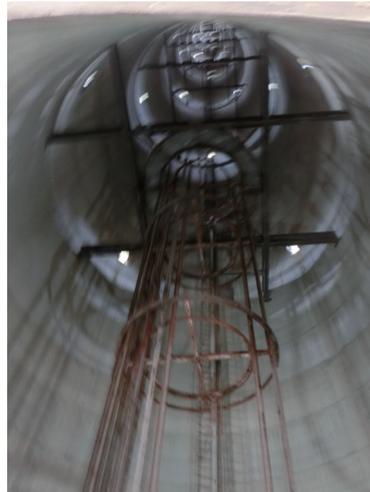
長崎県建築士会では佐世保支部が中心となり、企画・運営を担われました。そのおかげで



防空指揮所の地下壕跡
戦後、火事になって燃えてしまっているが、当時の豪華な雰囲気は残っている



「太平洋戦争の開戦を告げる「ニイタカヤマノボレ」を発信した針尾送信所
300 m間隔で3本建てられている。



針尾送信所の内部、終戦後は、近所の子供たちが肝試しで頂上まで登って遊んでいたとのこと

佐世保の海軍鎮守府の遺産群を視察する貴重な機会を得ました。佐世保市は人口4千人の寒村が明治16年に艦隊の根拠地となる鎮守府設置が決められて以来、海軍の町として海軍施設やインフラ整備が進められ、一気に都市化した地域であり、今年で鎮守府開庁130年を迎えます。

今回の視察では、佐世保市内に日本の赤レンガやコンクリートなどの日本の近代化遺産が多く残っていることを、改めて認識した次第です。

昭和17年のミッドウェー海戦の敗北後、本土決戦に向けての作戦基地として造られた防空指揮所地下壕跡は、当時としては珍しい水洗便所、冷暖房完備であり、作戦室には漆喰塗のモダンなデザインの柱が設置されています。当時、戦況が厳しい中でも、日本の軍部では、このような施設をつくる余裕があったのかと思うと、不思議な感じにさせられます。

また、現在、海上自衛隊の総監部となっている施設は、鉄筋コンクリート造であり、どの施設も昭和10年頃に建てられたものが多く、既に建築後、約80年以上経過しています。しかし、壁も厚く造られている耐爆構造のため、クラックもなく、構造的には十分使用可能な建物とのこと。これらの旧海軍及び海上自衛隊の総監部等の施設は、毎週金曜日に「海軍さんの散歩道」という徒歩ツアー（料金2,400円）で見学が可能です。

また、明治期に建造された赤レンガの倉庫群13棟が、今でも米軍基地内で現役として使用されており、その景観は、佐世保の一つのアイデ

視察先	
1日目 (11月9日)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐世保重工業 (SSK) 250 トン重機、立神係船池、SSK 第6ドック他 ・米軍海上自衛隊基地、赤レンガ倉庫群（外観のみ） ・旧海軍鎮守府防空指揮所地下壕跡 ・凱旋記念館、海上自衛隊総監部の建築群
2日目 (11月10日)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧海軍針尾送信所 ・前畑弾薬庫跡地（外観）

ンティティとなっているように思います。

2日目に訪れた針尾送信所（針尾無線塔：大正7～11年建設）は、太平洋戦争開戦を告げる「ニイタカヤマノボレ」の発信元として有名ですが、現地は潮風も当たるところにも拘わらず、建造後、約100年間経過しているのに、どこにもクラックはなく、当時の技術力の高さに感銘しました。

戦後は、子どもたちの肝試しの場にもなっていたようで、斜めになった555段の梯子を登って、頂上から海を見下ろしていたというから、驚きです。

来年度の当番県は熊本ですが、再来年度は、鹿児島または福岡が担当となりますので、当番の年となった場合は、私も含め、福岡県建築士会まちづくり委員会のメンバーは忙しくなりそうです。

(やまだ たつお)

近 況

✚新たなコトを始める

昨年、令和元年（2019）の秋、九州大学のキャンパス移転が完了しました。平成13年（2001）に学研都市構想が策定されて以来18年間の時を重ね、ようやく完了です。九州大学移転の話は、学内で最初に移転決定したのは、昭和47年（1972）に遡ります。しかし意思決定はされたものの、移転先の面積確保がままならず、全面移転とはならなかったそうです。その後、昭和53年（1978）にワーキンググループが設置されますが、意思決定までには至っていません。それから10年が経ち、統合型新キャンパス構想の検討がなされ、平成2年（1990）に新キャンパス構想委員会設置、候補地探しが行われ、翌年の平成3年（1991）に現在地に決定しました。そこから、ようやくキャンパスエリアの検討、用地取得、キャンパス計画の検討などが行われ、新キャンパスの概略が固まり、産学官による構想策定が10年後の平成13年でした。キャンパスの移転には、構想策定後の18年に加えて、構想以前にも10年以上の時間が流れています。大学移転は100年の計とも言われますが、100年先を見据えるためには、それだけの長い時間を要するということです。

この大学移転に関わるきっかけとなったのは、科学技術振興による地域活性化への取り組みでした。学園都市、サイエンスシティ、リサーチパーク、研究開発施設、産学連携など、科学技術や研究開発に関係する様々な事業のお手伝いをしてきました。

今年から、昔お付き合いのあった鳥栖地域の先端的研究支援拠点や、がん治療拠点、研究拠点が集積しているポテンシャルを活用し、がん患者の3割以上を占めると言われる稀少がん・小児がん・難治性がんの最適な診断法・治療法の開発を推進する組織の本格的な活動が始まります。今年はこの支援活動に取り組んでいきたいと思っています。まだ、立ち上がったばかりなのですが、世界に先駆けた量子医療の展開の

ため、先端的なプロジェクトが進められる予定です。多くの人たちの健康維持に少しでも貢献できればと思います。（山辺 眞一）

✚八女市上陽町芋焼酎プロジェクト～第10回大収穫祭を行いました

八女市上陽町芋焼酎プロジェクトは、上陽町の休耕地を活用し、地元と都市住民と一緒に原料となるさつまいも（コガネセンガン）を植え、焼酎づくりを行う取り組みです。この焼酎「環（かん）」の販売収益の一部を「地域の豊かさ基金」として積み立て、上陽町のまちづくりを応援する助成金として活用しています。

昨年度は、よかネット135号にも掲載したように上陽町にある小中一貫校「北洺学園」のゴルフ部に用具資金として、寄付させていただきました。

この芋焼酎プロジェクトの第10回目の大収穫祭を、昨年の11月17日（日）に執り行いました。



収穫終了後の記念写真。デンソーソリューション九州支社の社員とご家族に感謝



「大きな芋コンテスト」
1番手前が2.1Kgの1等賞の芋です

休耕地を遊ばせておくのはもったいないという精神から始めた事業ですが、よもや10年も続くとは感無量です。これも地元で畑をお世話していただく方々がいるからこそ、続けられるものと思っております。

当日は、私も自宅を6時半に出発し、8時に現地到着。毎年、ボランティアとしてお手伝いに来ていただく(株)デンソーソリューション九州支社の社員やご家族の方々を受け入れるため、プロジェクトメンバーは、芋を掘りやすくするために畝の側面だけに鍬をいれたり、焼き芋の準備等々、1時間の作業を行いました。私は地域活動の都合で行けなかったのですが、プロジェクトメンバー数人は、前日にマルチ剥ぎや芋蔓切などで、当日より重労働の準備をしています。

毎年、芋掘りでは、大きな芋を掘り当てた子どもには賞品を与える「大きな芋コンテスト」を行っています。今年は、私が芋量り係だった

のですが、子どもたちも賞品がかかると、必死になって次から次へ芋を持ってくるので、私も芋量りから手が離せず、芋掘りの方の手伝いはできませんでした。今年の芋コンテストの優勝者は2.1kg、本人の顔と変わらない大きさでした。

今年は、芋の出来がよく、例年にくらべて小芋は少なく、1トン以上収穫できたのではないかと期待しています。

昨年度から芋焼酎「環」の応援団員の募集をしています。資格と期待は左記のとおりです。是非、応援団員になっていただき、上陽町を盛り上げていただければ幸いです。

(山田 龍雄)

総ワークとスポーツのバランスをどう取るか

昨年は7月に、2年ぶりに福岡トライアスロンが開催され、友人たちと参加しました。

自転車は2ヶ月に一度30kmを走る程度の練習をしたのですが、水泳は苦手種目にも関わらず、ほとんど練習することができませんでした。また、当日も準備体操を怠ってしまい、結果、最初の種目である水泳を100mくらい泳いだところで他の出場者とのバトル(水中で押し合いへし合いのバトルが繰り広げられます)で疲弊し、息をしづらくなってしまい初のリタイア。

陸に上がると、血が混じった痰が出るので、事務局のドクターに相談したところ、「慌てて大きく呼吸しすぎて気管支に裂傷が出来たのではないか」とのこと。最初の種目の、スタート直後のリタイアだったものですから、その後に友人を待つ時間が長く、一人ベンチに座って何

■あなたも「環」の応援団員になりませんか？

<応援団員の資格>

- ・年齢、性別、国籍は問わず。こよなく焼酎を愛する人
- ・汗を流す時間はないが、地域貢献をしたいと密かに思っている人。
- ・参加費 なし

<応援団員への期待>

- ・1年に最低1本「環」の購入。応援団員の拡大、「環」のPR

- ・取り扱ってくれる居酒屋等の紹介
- ・畑の手入れ、芋苗植え等への参加

<応援団員の特典>

- ・収穫祭の参加
- ・特別価格販売のご案内(1600円を1500円)

■芋焼酎「環」

○購入できるお店

【ほたと石橋の館】

住所：八女市上陽町北川内 589-2

電話番号：0943-54-2150

【倉員酒店】

住所：八女市上陽町北川内 533-1)

電話番号：0943-54-2003

○飲めるお店

【おなか元気居酒屋まんまる】

住所：久留米市六ツ門町 17-21

電話番号：0942-30-3110



福岡マラソンのスタート前の様子

とも情けない気分を味わいました。

また、11月の福岡マラソンにも開催3日前に急遽走らせてもらう機会をいただき、走ってきました。3年ぶりのフルマラソンです。しかし、こちらも全然練習することができず、最初はまあまあ快調だったものの後半になるにつれ足が重くなり、全身が重くなり、結果は4時間半。前回の福岡マラソンは2時間57分だったので、約1時間半も遅くなってしまいました。日々の地道な積み重ねが大事なことは分かっています。お腹の周りも随分出てきたので、今年は少しでも復調しなければなりません。

仕事の方では、ネットワーク会社の(株)地域計画建築研究所と連携し、ここ数年取り組んでいる観光客の動態分析業務を関西地域に展開することができました。

また、現在新たな分析メニューをパートナーと試行錯誤しながら作っており、完成すれば地域の実情をより深く知ることができるようになります。ということで仕事の方では、目をシパシパさせながら、データベースと向き合い、地道な作業を続けている毎日です。

今年も皆様と連携しながら、少しずつでも成長していけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。(原 啓介)

◆健康第一

皆様、明けましておめでとうございます。今年も、色々なことにチャレンジしていきたいと思えます。ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

●絶不調の前半戦・何とか盛り返した後半戦

まずは、業務面を振り返ると、昨年の4月～8月までは絶不調でした。連戦連敗の日々が続き、メンタル的にも随分とやられて、このままでは駄目だともがく日々。ようやく9月以降、ポツポツと吉報が届き出し、何とか首の皮がつながりました。この間、改めて、自分自身の強みや弱み、自分がやりたいことを見つめ直す良い機会となりました。

今後は、ベースをコミュニティに置きながら、防災・減災や総合計画、商業活性化というところの専門性をより高めていきたいと思っています。

す。

●長女誕生・4人家族となりました

プライベートを振り返ると、8月末に祖母を亡くす一方で、11月に第2子となる長女が誕生するという死と生を見つめる機会を得ました。祖母については、前日に会って話をした次の日の朝に亡くなったため、未だに信じられない不思議な感覚でいます。確かに、温かい祖母の手を握ったのに、次の日には通夜があり、その次の日には火葬場で骨を拾うという何とも言えない経験をしました。

その上で、11月には第2子となる長女が誕生しました。私の家は、父、母、私と一人っ子だったために、初めての兄妹ということで、戸惑いながらも家族みんなで子育てをしています。子育てといいながら、2人の子どもから親育て、じじば育てをされているというところでしょうか。

●健康第一で

若い若いと思っていましたが、40歳も近づいてまいりました。今まで以上に健康に留意し、無理をせず、「関わらせていただいた地域をより良くする」ために頑張っていきたいと思えます。(山崎 裕行)

◆今年は何処に・・・

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて昨年の新年号では料理とキャンプの話を書きました。特にキャンプは念願のテント泊も達成、キャンプ道具も着々と増えています。

そんな深みにハマりつつあるキャンプですが、さらにそれ以上にドップリ深みにハマったのがプロレス観戦でした。数年前から最頂の団体が福岡で興行を開催する際に観に行く程度には好きだったのですが、それが一気に急加速。気になる選手・団体が福岡で試合するとなったら、初めての団体でも観戦にいったり、ファンクラブに入会し、試合の動画を日々視聴したりと。

11月にはついに、プロレス観戦のためだけに弾丸の東京遠征を敢行しました。当日の朝の飛行機に飛び乗り、脇目もふらずに会場へ。会場



両国国技館は大盛り上がりでした！

は憧れの両国国技館。国技館ならではのマス席に感動し、名物の焼き鳥を頬張り、白熱した試合はもちろん笑いあり涙あり、あっという間の5時間。大会終了は20時過ぎで、晩ご飯もそこにホテルへ戻り、翌日は10時過ぎの飛行機で帰福。本当にプロレスを見るためだけの夢のような1泊2日でした。

ここまでプロレスの深みにハマったのは、もちろん最頂の団体ができたのもあるのですが、何よりも私一人ではなく、妻と二人してハマったことが大きいと思います。

どちらかの趣味であれば、どちらかがストッパーになるのですが、ことプロレスに関してはストッパーがいない状況。晩ご飯を食べながらプロレスの配信を見て、プロレス談義をするという中々の食卓を囲むことも多々あります。

この熱は夫婦揃ってまだまだ冷めることもなさそうです。この記事を書いている時点ですでに3大会は確定。発表されていないものも含めるとまだまだ増えるはず。今年は何処に何の団体を何大会、見に行くことになるのでしょうか。
(櫻井 恵介)

🔗社会人3年目！！

●初めての本厄

2019年を振り返ってみて、初めて尽くしの年だったなと感じました。2019年の正月に、初詣に行くと、自分が厄年だということを知り、どうなることかと思いましたが、無事に大きな事故や病気にかかることはなく、過ごすことが出来ました。後厄が少し心配ではあります。



今年も、いろんな場所に行きたいです

●プレーリーダーになりました

突然ですが、「プレーパーク」って知っていますか？プレーパークとは、火おこしや、木工、水遊びなど、普通の公園では禁止されているようなことも自由に遊ぶことができる遊び場のことです。デンマークが発祥で、日本では東京の世田谷区にある羽根木プレーパークがオープンして以降、全国で広がっています。日本冒険遊び場づくり協会によると、現在では、全国で約400団体がプレーパークに関わっています。

大学時代に、子どもと遊びの関係性について卒業論文を書いた際にプレーパークに出会い、その遊び場としての環境に感銘を受け、いつかプレーリーダーとして現場で子どもたちと接してみたいと思っていました。

社会人2年目になり仕事以外でも何かチャレンジしたいと思っていた時に、偶然Facebookで、福津市で毎週プレーパークを行っている「NPO法人プレーパークふくつ」を見つけました。

これまでの経緯やボランティアとして参加したい趣旨を連絡すると、快く参加を認めて下さり、今では念願かなってプレーリーダーとして関わっています。子どもとの接し方や遊び場づくり等、日々、勉強になることが多く、参加できて良かったと思っています。今年も、去年よりも多く参加していきたいです。

●ようやく慣れてきた、福岡のまち

生まれたときから住んでいた北九州市を離れ、福岡市に引っ越しをしてから、もうすぐ2年になります。私が住んでいる場所は、飲み屋さんが多く、周りから「良い環境に住んでいま

すね」なんて言われていましたが、最初の1年は、なかなか行く機会がありませんでした。最近では、徐々にいろいろなお店に足を運ぶようになり、好きなお店も見つけ、なぜ、もっと早くいろいろなお店に行かなかったのかと後悔をしています。今年は、まだ行ったことの無いお店の食べ歩きをしたいと思います。

●最後はまじめにお仕事について

昨年は失敗の多い1年でした。自分の実力不足や考えの甘さからたくさんの壁にぶつかりました。周りの協力やサポート、指導が無ければ、仕事を遂行することができなかったと思います。3年目を迎える今年は、昨年までの、良かった点、改善点を踏まえ、仕事に取り組んでいきたいと思っています！！

改めまして、本年もよろしく願いいたします。

(仙波 大海)

📖 昨年も空と海と楽しみました

航空オタ7年目に突入。というものの当初より落ち着いてきておりまして、昨年は松島（宮城）、入間（埼玉）、新田原（宮崎）の3箇所のみの参戦でした。

一方、免許取得を目指していたダイビングですが都合がつかず、それでも潜っておきたかったので11月に慶良間諸島に行ってきました。

●やはり最初はビビリ発動

一昨年は1ダイブとシュノーケルを申し込み、結局楽しくて1ダイブ追加をしました。1ダイブに追加をすると16,000円、最初から2ダイブだと13,500円と追加の場合料金が割高になるので、今回は初めから2ダイブを申し込みました。前回と同じ那覇から船で慶良間諸島まで行って潜るコースにしたのですが、今回はファンダイビングという免許を持っている人達5人と同じ船でした。体験ダイビングは私を含め3人、しかも2人は初心者。

潜るポイントに着くと、まずはファンダイビングの人達が先に海に入っていきます。それから体験ダイビングの3人がジワリと海に入り、呼吸や耳抜きに気をつけながら潜っていきます。

一応1回経験者である私が先頭で潜っていく



おまけでいただいたクジラの写真。いつか生で見たいです

ことになりました。5mほどの深さの海底に着いたところで二人が降りてくるのを待っていると呼吸や耳抜きをするたびにマスクの中に水が入ってきて、マスクの中の水を抜くマスククリアをしなければいけない状態になりました。

マスククリアといえば私の天敵。初めの数回は落ち着いて出来たものの、3人目の人が耳抜きに苦勞してなかなか降りて来られないのを待っている間に、だんだん怖くなってギブアップしてしまいました。

●マスクのぴったり感がわからない

海面にあがり「無理です」と伝え、いったんボートにあがり、2ダイブ申し込んだ事を後悔しつつ、船長さんにマスクに水が入ってきて怖いと伝えサイズを調整してもらいました。水中では水圧でマスクがくっつくから、そこまで締めなくていいと言われていましたが、水が入るよりマシなので少しきつめに締めてもらいました。シュノーケルで締め具合を確認しようとしていた所にファンダイビングの人が戻ってきて、付いていたインストラクターの人が一緒に潜ってくれると言ってくれたので再挑戦しました。するとさっきまでの恐怖心が嘘のようにすんなり潜れて、体験ダイビングの人達と合流できました。マスクへの水も気にならない程度にしか入らず、深さ5mぐらいではきつめでちょうど良かったです。最初のマスクがゆるすぎた?!という疑惑は残りましたが、無事に潜れて一安心しました。

●結局追加ダイビングを申し込む

1本目で恐怖心を克服し、場所を移動して2

本日も楽しみ、昼食後休憩していると、インストラクターの方から「3本目はどうします？」と聞かれました。ファンダイビングの人達は最初から3ダイブの予定だったらしく、場所を移動してまた潜るといので「潜りたいです」と伝え、結局、割高な追加ダイビングをしたのでした。3本目は水深10mぐらいまで潜ったので、1、2本目とは全然違った景色が見られて楽しかったです。

●おまけの魅力的な写真

今回インストラクターの人に写真を撮ってもらおうオプションも付けていました。後日送られてきた写真にはおまけが付いていて、水中で撮ったウミガメやクジラやイルカという魅力的な写真がありました。

いつかマンタを見たいしウミガメもクジラもイルカも一緒に泳いでみたい。聞くとマンタが見られる場所で潜るにはやはり免許があった方がいいということなので、今年こそは免許取得に再チャレンジしたいです。

そして今年ブルーインパルスに関しては楽しみにしている事がありますので、それは又ご報告させていただきます。本年もよろしく願いたします。(佐伯 明日香)

🌀6年目の体験農園

平成25年に志賀島勝馬で体験農園(農家の方が指導してくれる貸農園)を始めて、今年度で6年目の冬を迎えます。今年の利用者は23名です。1年目は、私個人で頑張って野菜作りに精を出していたのですが、2年目から農家出身の女房が野菜作りにハマってしまい、今では私は女房の命令のままに動いている状況です。

体験農園は、当初は農家の指定の区画で、指定された野菜しか植えられませんでした。利用者の要望もあり、4年目からは、余っている土地にフリー区画を提供してもらい、好きな野菜づくりを楽しめるようになりました。

昨年の夏はミニトマト、キュウリ、ピーマン、パプリカが豊作の年でした。特にピーマンは8月から11月末まで収穫でき、朝はピーマン入れ目玉焼き、夜はピーマンサラダ、ピーマン肉



志賀島勝馬の体験農園での野菜作り、6年目になりました

詰め等々、おそらく3年分のピーマンを食していると思います。

現在、冬野菜ではブロッコリー、カリフラワー、ホウレンソウ、カツオ菜等が順調に育っています。

コスト的にはスーパーで購入した方が安いのではないかと思います。低農薬で採りたて、新鮮な野菜を食するのは、非常に幸せなことだと思っております。(山田 龍雄)

編集後記

🌀今年で25歳になります。四捨五入すれば、アラサーと、着々と30代に近づいています。子どものときは、「20歳になれば大人」と思っていました。が、まだまだ、大人としての自覚が足りない日々だと痛感しています。2020年は、さらに成長していきたいです。(仙)

よかネット No. 137 2020.1

(編集・発行)

株式会社よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com

mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030